

ISO 審議状況の要点

(1) 大気専門委員会 (TC146)

●固定発生源 (SC1)

- ・インパクターによる PM10 及び PM2.5 の測定方法は、低濃度と高濃度に分けて検討されています。
- ・監視システムのサンプリングの規定が発行されました。

●作業環境 (SC2)

- ・粉塵の秤量誤差の制御が検討されています。
- ・イオンクロマトグラフィーによる無機酸塩の定量法が検討され始めました。
- ・ナノ粒子の粒径分布と個数濃度の測定法が検討され始めました。
- ・ICP/MS による粉塵中の金属の分析法が検討され始めました。
- ・水銀蒸気の測定法、ナノ粒子の評価方法が発行されました。

●気象 (SC5)

- ・ライダーによる地上遠隔測定が検討され始めました。
- ・風速計の風洞試験法、温度計の試験法が発行されました。

●室内環境 (SC6)

- ・インパクターサンプリングによるカビや菌数の測定方法が検討されています。
- ・吸着能を有する建材の評価試験が検討されています。
- ・建材から放散する半揮発性有機物の測定法（マイクロチャンバー法）が検討され始めました。
- ・建材の揮発性有機化合物の放散量の測定法が発行されました。
- ・VOCやアスベストのサンプリング法などが発行されました。

(2) 水質専門委員会 (TC147)

●物理的・化学的・生物的方法 (SC2)

- ・LC による溶存アニオンの定量法が最終段階に至っています。
- ・特定アルキルフェノールの定量法が検討されています。
- ・固相マイクロ抽出-GC/MS による殺生物剤の分析法が検討されています。
- ・GC/MS による多環芳香族炭化水素の分析法が検討されています。
- ・GC/MS による水中の非極性物質の定量法が検討され始めました。
- ・UV 分解を用いた全窒素の定量法が検討されています。
- ・ICP-OES の選択元素の定量法が発行されました
- ・GC/MS によるダイオキシン類ポリ塩化ビフェニールの分析法が発行されました。
- ・底質や下水汚泥中の特定ポリ臭素化ジフェニルエーテルの定量法が発行されました。

●微生物学的方法 (SC4)

- ・クリプトスポリジウムのオーシスト、ジアルジアのシストの同定法が発行されました。
- ・微生物学的分析のためのサンプリング方法が発行されました。

●生物学的方法 (SC5)

- ・海水等に生息する *macroalgae Ceramium tenuicorne* (大型藻類：紅藻) による生育阻害試験が検討されています。
- ・*Arthrobacter globiformis* (土壌細菌) を用いたコンタクト・アッセイ (接触試験) が検討され始めました。
- ・底質・土中の *C.elegans* (線虫類：シー・エレガンス) に対する毒性影響評価が検討され始めました。
- ・活性汚泥の酸素消費の抑制試験が発行されました。
- ・海洋生物学調査の手引きが発行されました。
- ・小核の誘導の測定による遺伝子毒性の評価が発行されました。

●サンプリング (SC6)

- ・下水汚泥のサンプリングに関する指針が検討され始めました。
- ・地下水の採取地点に関する指針が検討されています。
- ・サンプリング計画及びサンプリング技法策定の指針が発行されました。